

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	380100492
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきクリニック
所在地	愛媛県松山市市坪南1丁目5-26
自己評価作成日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携を理念とし、常に利用者の健康と慢性疾患の管理を念頭に置いている。医師、看護師、理学療法士、介護職員等が協力して、生活リハビリ等を通して、その人の残存機能を生かしながら、その人らしい健康的な生活がおくれるように援助することができる。医療機関が母体であるために、夜間や休日にも看護職員と院長の連絡が取れる体制をとっており、利用者の急な疾病や状態の変化にも対応ができる。また年2回地域フォーラムを開催し、地域住民と交流を持ち、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体病院の2階にあり、介護療養型医療施設であったスペースを利用してグループホームを運営している。年2回、地域住民を対象に転倒予防や水害対策をテーマに「地域フォーラム」を開催して参加者と交流を深めている。事業所ではリハビリに力を入れており、週3回1階にある診療所でパワーリハビリを行い、利用者の身体機能の維持向上に努めている。管理者と職員は、利用者が昔していた事に着目して、利用者が今できることを考えぞうきんや箱づくりを行っている。今後も利用者と一緒に折り紙での壁画作成やかごづくりを行いたいと意欲を持って取り組んでいる。また、外出の機会を多く持つことを今年の目標に掲げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつばきクリニック

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

岡山由美子

評価完了日

平成 27 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスについて、事業所全体の勉強会等を通し職員が話し合いを行い作成する。またGH内にも提示し、職員一人一人が意識しながら仕事に取り組み、支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 理念については、自己評価作成時に職員全員で話し合い見直しを行っている。管理者と職員は「介護に対する姿勢、自分の親にされて嫌な事はしない。」など理念に沿った日々の関わりを大切にしている。理念は廊下に掲示し、常に職員一人ひとりが意識して実践につなげるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 定期的に勉強会、家族会、地域フォーラムを実施している。ブログ、新聞の作成また、地域の文化祭、運動会にも積極的に参加し、地域の中高生の職場体験、ボランティアも受け入れている。</p> <p>(外部評価) 年に2回、転倒予防や水害対策をテーマとして「地域フォーラム」を開催しており、地域住民の参加が増え地域での恒例の行事となっている。地域の運動会への参加や、文化祭には利用者が作成した作品を出展するなど地域の行事等に積極的に参加しており、音楽療法や話し相手のボランティアを受け入れるなど地域との交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に認知症についての地域フォーラムを開催し、地域の方への情報発信を行っている。また運営推進会議等を通して認知症に関する勉強を行い理解を促している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 概ね2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、市担当者、包括支援センター職員、利用者、家族、地域の方等に参加していただいている。その際、意見や要望、質問を受け、サービスの向上につなげている。また会議録を作成し次回に生かせるものになるようにし、不参加家族に対しては、家族向けの報告書を作成している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て開催しており、職員が交代で議題を検討したり、家族向けに会議の報告書を作成してもらう等、会議に関心を持ってもらえるよう取り組んでいるが、参加者が固定化され積極的な会議になるまでは至っていない。</p>	<p>職員は、運営推進会議の議題を検討したり、案内の工夫や会議の報告書を作成するなど、家族向けに関心を持ってもらえるよう取り組んでいるが参加人員の増には至っていないため、今後も継続して参加を呼びかけるとともに多方面から意見をもらい、その意見をサービス向上に活かせるよう期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域フォーラムや運営推進会議では参加をお願いし、意見交換を行っている。また必要に応じ訪庁、電話連絡等を行い協力関係を構築している。</p> <p>(外部評価) 市職員、地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況の報告や情報交換を行っており、その際に生活福祉課職員に相談することも多く、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、身体拘束についての理解を深め、周知徹底している。実際行っていない。</p> <p>(外部評価) 法人全体で身体拘束をしないケアを実践している。なお、日常の業務の中で気になっていることは、毎月の勉強会で取り上げ確認している。また、外部研修に参加するなど、身体拘束について理解を深めるとともに、研修後は、レポートを作成し職員全員が共有してケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を開催し、周知徹底している。また自治体や地域密着型サービス協会等の各種研修会にも参加し、理解を深め、職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 定期的な勉強会の開催、法人外の各種研修会等に参加し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を用い十分に説明し納得、同意をいただいている。また常日頃から質問等にはお答えできる様になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の会話や支援を通して把握するように努めている。運営推進会議等で家族の意見、要望を聴いたり、アンケートを実施している。また日頃より良好な関係作りに努め、よりよいGHになるよう改善している。 (外部評価) 職員は、利用者と接する時間を大切にして日常会話の中から出た言葉を記録し共有している。家族には面会時に声をかけて利用者の様子を報告したり、意見や要望を聞いている。また、年に1回家族アンケートを実施して意見を聞くようにしており、出された意見は職員間で共有し対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 勉強会、ミーティングの際に意見交換を行い、改善に努めている。また月1回経営者、管理者、リーダー等の代表者が集まり経営会議を行い、意見交換の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会で意見交換を行っており、行事など管理者が提案して職員が考える構図ができています。また、クラブトや計算問題やクイズなど職員のアイデアを積極的に取入れ、利用者の意欲を高めると共に職員のやりがいにもなっている。外部研修の情報は職員に回覧して積極的に参加できるように配慮している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の努力、勤務状況を把握し、即対応している。また資格習得への支援も行い、スキルアップできる様努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の勉強会、研修会等へ積極的に参加を促し、サービスの質向上に繋げている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の参加や法人外の研修会、勉強会に積極的に参加し、情報交換を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に必ず事前訪問を行い、本人の思いを確認している。また随時グループホームへの見学も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族にもニーズや不安などを確認している。また家族と事業所との協力体制についても説明し理解を得ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) なるべく早い段階で暫定ケアプランを作成し、サービス開始時には安心できる場となるよう配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に行いなじみの関係ができる様取り組んでいる。信頼関係が築けるよう、コミュニケーションを大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時に定期的（月1回）に近況報告し、利用者がよりよく生活できる様意見交換している。また場合によっては電話や郵便物での連絡も行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい雰囲気作り、環境作りをしている。行事には家族に参加していただき、共有することでより充実したものになるようにしている。 (外部評価) 利用者の同級生や以前住んでいた近所の方の面会時はゆっくり過ごすことができるように配慮し、馴染みの関係を大切にしている。また病院内の通所リハビリに通ってくる利用者との交流やボランティアの方、行事等で交流のある利用者同士など、新しい馴染みの関係を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士でトランプをしたり、一つの机を囲んで塗り絵等の作業、調理、家事参加等お互い支えあいながら行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても本人、家族が安心して過ごせる様に他のサービスの紹介など相談、支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食べたい物の希望を聴いたり、日々の何気ない会話、表情、しぐさ等の中から本人の思いを汲み取るように職員一人一人が意識している。またそれを記録に残し、申し送りやカンファレンス等を通して情報を共有し、検討を行っている。 (外部評価) 利用者のしたいことや食べ物の好みなどを日常会話の中で聞き取り、利用者の思いや意向の把握に努めている。情報は記録して職員間で共有している。利用者の誕生日にはケーキを作り、情報をもとにプレゼントを渡している。会話の困難な利用者は日頃の様子や表情からくみ取り、また家族から面会時に情報を聞き取り、利用者本位のサービスが提供できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 信頼関係を構築する中でアセスメント、記録を行い、情報把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメント等で、個々の身体状況、生活暦等を把握し、その人らしい生活ができる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>その人らしい生活ができる様、サービス担当者会議を開き、基本的には3ヶ月に1回、また状態の変化に応じて都度職員全員で検討し、ケアプランを作成している。また1ヶ月ごとにモニタリングを行いプランの見直しを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>サービス担当者会議を3か月に1回実施しており、家族が参加できない場合は事前に電話で意見や希望を聞き、利用者の思いや意向に沿い介護計画を作成するようにしている。また、介護計画は利用者の体調の変化に合わせて見直しをしており、利用者の生活の様子を24時間シートに記録し職員間で共有し業務に反映している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や生活の中で気づいたことを記録し、ケアに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>法人内にデイケア、小規模多機能施設、高齢者住宅があり、本人の状況、ニーズに合わせて様々なサービスが提供できる。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ボランティアの受け入れ、防災訓練等に地域住民、民生委員の方にも参加していただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意向を尊重し受診できる様支援している。緊急時も適切な対応が取れる体制を整えている。	
			(外部評価) 入居時に1階にある母体病院と連携が取れていることを利用者と家族に説明し、利用者全員が納得して母体病院をかかりつけ医としている。受診状況は家族に報告し情報共有している。かかりつけ医は常に利用者の状態を把握し緊急時にも対応でき安心感がある。皮膚科など専門医の受診が必要な時は、かかりつけ医の紹介で職員同行で受診し適切な医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤で看護師がいるため情報交換しながら連携して支援できている。また、訪問看護師ともスムーズな連携が取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携を密にとり安心して過ごせるよう配慮している。また入院時には適宜面会し、現状を把握すると共に、看護師等の病院関係者とも情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針、マニュアルを作成し、入所時に説明し家族の意向を確認している。 看護師や訪問看護と24時間連絡を取れる体制をとっている。	
			(外部評価) 看取り指針・重度化・終末期指針を作成し、入居時に事業所でできることを利用者と家族に説明している。終末期ケアの事例はないが、安心して最期を迎えられるよう医師や看護師等との医療連携体制は整っている。利用者や家族は「急変時は病院へ搬送してほしい。」という希望が多いため、急変時対応の要望を聞き同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に法人内外の研修会や勉強会に参加し、またその都度病気についての症状について調べ、学び、スキルアップにつなげている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回の定期的な避難訓練、年1回の風水害対策訓練を実施している。運営推進会議時の議題として取り上げることもあり、その際消防署員、地域住民や家族にも参加していただき、訓練を実施している。非常食、水も備蓄している。 (外部評価) 年2回、夜間を想定して避難訓練を実施しており、内1回は消防署の立会いのもと実施しアドバイスをもらっている。水害地区に指定されているため、風水害・洪水時の避難マニュアルを作成しており、「地域フォーラム」では、市災害対策指導員による講演を実施している。また、地域消防団に緊急連絡網に入ってもらっており協力体制は十分整っている。災害時備蓄品として水、お茶、お粥等を準備し緊急時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳を傷つけないケアや声かけに配慮している。記録物の保管、大勢の目に触れる廊下等に個人を特定できる物を置かない等、プライバシーの保護にも意識的に努めている。 ブログや新聞に写真を使用する際は同意書をとるようにしている。 (外部評価) 居室の表札は利用者一人ひとりの希望を確認し対応している。排泄時の異性介助については離れての見守り等の配慮をし、入浴についても羞恥心に配慮した対応をしている。管理者は個人情報を外に漏らさないよう職員指導を徹底するなど、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常にコミュニケーションを重要と考え、言動だけでなく表情やしぐさ等に目を配り、本人の思いを感じ取り、意向に沿う支援を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズム、個別性を尊重し、体調や状況に応じた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な美容師が訪問し、日々の身だしなみや服装ができるだけ本人の意向となるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も同じものを同じ食堂で食べながら、できるだけ自分で食事が食べられるように見守り、必要時には適宜介助している。またできる範囲で調理等にも参加していただいている。また定期的にアンケートをとり、献立に反映させている。	
			(外部評価) 日常会話の中で利用者の好みを把握し、アンケートで利用者の希望を聞いたり、テレビで見た好みのメニューを取入れ、料理の好きな職員が献立を決めている。利用者の状態に合わせて座席を変更したり、刻み食など食事形態にも配慮している。また、職員も一緒にテーブルを囲み、同じ物を食べており、利用者が楽しく和んだ雰囲気です。食事しやすいような環境づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量には注意し、日々記録をつけている。場合によっては体重測定や状態を観察しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄のパターンを把握、記録し、トイレでの排泄が可能な利用者は適時及び適宜トイレ誘導を行っている。排泄は日頃から牛乳やヨーグルトを摂取し、なるべく自然に排便ができるように支援している。</p> <p>(外部評価) 排泄・水分チェック表で排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりに合わせて声かけしトイレでの排泄を支援している。オムツ使用の利用者は時間やタイミングに合わせて地道に声かけし、トイレでの排泄を支援することでリハビリパンツに移行した事例もある。また、排便時にはやむなく便秘薬を服用することもあるが、水分や乳製品等の摂取により自然排便できるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事や水分、運動量等に気をつけながら便秘を予防している。必要に応じて乳製品を使用している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 3回/週、曜日を基本とし、利用者の体調、希望、皮膚の状況、入浴の間隔等考慮し、臨機応変に対応している。必要に応じ、清拭や陰部洗浄を行っている。また身体状況に応じ、リフトや座シャワーを使用し、安全に入浴できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 入浴は週3回を基本としているが、入浴の時間、順番、回数等は利用者の希望に沿って対応している。浴室にはシャワーチェアや座シャワーを設置し、利用者の身体状況に合わせて安全に入浴できるようになっており、入浴剤を使用しての入浴も楽しむことができる。また、入浴の苦手な利用者には職員が交替で対応したり、声かけの工夫等により無理なく入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中の活動、本人の意向等、個々の状態に応じて、安眠できる様支援してる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指導により薬の作用、副作用、用法等を理解できている。また日々の観察を行い、報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理、洗濯物の片付け等への参加、季節ごとの行事を提供したり、日々の生活が充実するものとなるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を取り入れながら、状態、気候等に応じて散歩や日光浴、買い物等外出する機会を持っている。外出時は人(学生)が多い場所、草花が多く咲いている所等、気分転換や刺激が得られる様に工夫している。また家族への行事参加をお願いしている。 (外部評価) 2階にある事業所は、エレベーターを使用して気軽に外出することができるようになってきている。事業所周辺を散歩し地域の方と挨拶を交わしたり、同法人のサービス付き高齢者住宅に立ち寄ったり、他のサービス利用者との交流を持ったりしている。また、季節ごとに初詣、椿まつり、花見等の行事に出かけたり、スーパーなどに買物に行き楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同意の下、家族から預かりGHで管理している。また毎回出納帳に記録をつけ、定期的に家族に開示している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 認知症自立度判定も高くあまり行えていないが、年賀状の返信は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節に応じた壁絵の飾りつけを行ったり、常に環境を整え、利用者にとって居心地がよい場所になるよう心がけている。また整理整頓を心がけ、居心地よく生活してもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 廊下とリビングには、利用者と一緒に作成した季節感のあるクラフトを飾っている。また、リビングは利用者同士が穏やかに気持ちよく過ごすことができるよう、机を増やしたり換気にも気をつけている。職員は毎日掃除を行っているが、利用者ができることについては可能な限り一緒に行うようにしている。また、トイレは臭気に気を配る等の配慮があり、清潔な環境で過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングではそれぞれ定位置があり、状況に応じて対応している。常に声かけや気を配り、居室に誘導する等、臨機応変に対応している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族にも協力してもらい、本人にとってなじみのあるものを使い慣れたものを持ってきてもらうことで、これまでの生活が継続できるように支援している。また毎日の掃除、環境整備により、気持ちよく、安全に生活できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド、タンス、エアコンが常備されており、布団やシーツなどの寝具は、利用者の好みの物を使用している。また、使い慣れたタンス、衣装ケース、鏡などが利用者一人ひとりの好みに合わせて持ち込まれており、居心地よく過ごすことができるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自分でできることはしてもらい、利用者が普通の生活を送ることが出来る様に支援している。またそのための個別の支援、環境等を工夫している。</p>	